SINCE 1990

廃棄物学会　東海･北陸支部　会報

No.5　廃棄物学会 東海･北陸支部

産業廃棄物の不法投棄(不適処分)について

東海・北陸支部副支部長
辻　　喜　礦

産業廃棄物の処理不適に関する対策について現在様々な事例が顕在化しつつある。そもそも廃棄物と称してすべての不要物を扱うことに限界がある。これは経済行為の中で利用不可の閾値設定が周辺環境あるいは経済状況により、大きく歪むことに原因がある。

資源物として不要物を回収しようとする、あるいはしたとしても、再資源化が不可の場合は、廃棄物として処理されねばならないのはいうまでもないが、持ち込まれたものが当初から意図的に放置することで、不当な利益を求めることを目的としている場合には、その業者は明らかに(うそ、偽りをいう)確信犯として社会的に制裁がなされねばならない。

しかしながら、排出事業者と処理業者が異なる場合には、行き違いなどの意思の疎通を欠くことが稀ではなく、このため、廃棄物処理・処分の現状はかなり、共同正犯としての体現化とみなしうる経緯がやり取りという経済行為には潜在している。特に、社会的に地位の高い大企業が、何らかの形でこれらの不法行為に荷担していないとは決していえない。

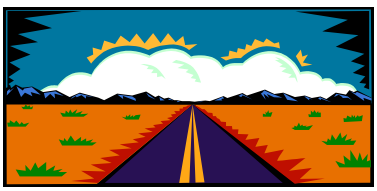
国際的な動向を踏まえれば、さらに資源回収の行為は、奥行きが深くなる。例えば、東京都の処分場の埋め立て物をそのまま輸出して、資源回収を図ろうとしている、あるいはこのような試みが散見する経済行為の現状を見れば、問題を紐解くことが難しくなる。勿論これらを実施する前提として、パーゼル条約に違反しない程度の範囲でしか実行できないのは言うまでもないが、このような行為をどのように評価するかが、意見の分かれることでもある。

最近では余り聞かれなくなったが、スカベンジャーの存在は、廃棄物からの徹底した資源回収としてみなしうるとしても、実際に社会的に位置付けがなされた体系ではないことが、この悲しむべき現状の解決を阻止しているとも言える。これらの体系が正しく維持されるためには、資源回収が容易に実施できるような経済行為が存在していなければならない。

さて、日本においては、21 世紀は資源循環型社会形成を柱に、持続可能な経済活動を実現することを目的として、様々に法体系が構築され、施行の段階に至っている。しかしながら、日本社会の枠から離れた視点で見るならば、資源循環のためには、これまでの無原則な物資の輸入を可能な限り早期に解消する必要があるのも、言うまでもない。

資源循環は国土の廃棄物の捨て場からの回帰であるのは言うまでもないが、このためには今までのような、他より、より多くの利潤を得るためには手段を選ばすとしたこれまでの経済活動を見直し、限られた条件のもとでの経済活動を構築することも合わせて実現しなければならないのは言うまでのない。

企業が自社の利潤を確保するためには、社会的なあるいは地球的規模から考える責務を見つめ、企業活動を制限することが可能な社会的に合意が求められている。利潤を勝ち取ることが勝者の論理であり、会社への貢献がこのような経済原則に終始している現代社会は、もはや限界に来ていると思われるのである。



平成 16 年度　廃棄物学会　東海・北陸支部

見学会・体験講座のご案内

[日　　時] 平成 16 年 9 月 17 日（金）12 時～17 時 30 分

[会　　場] エコハウス・小牧（小牧市リサイクルプラザ）　〒485-小牧市大字大草 5786-83
循環型社会を身近に体験し，学習できる施設です。

[会　　費] 廃棄物学会会員 2,000 円、学生及び登録団体市民会員 1,000 円、一般 3,000 円
（当日、受付にてお支払い下さい）

[集合時刻] 11:45（出発：12:00）

[集合場所] ＪＲ名古屋駅中央コンコース太閤通口すぐ「銀の時計」（下図参照）

[交　　通] 貸切バスにて現地に移動

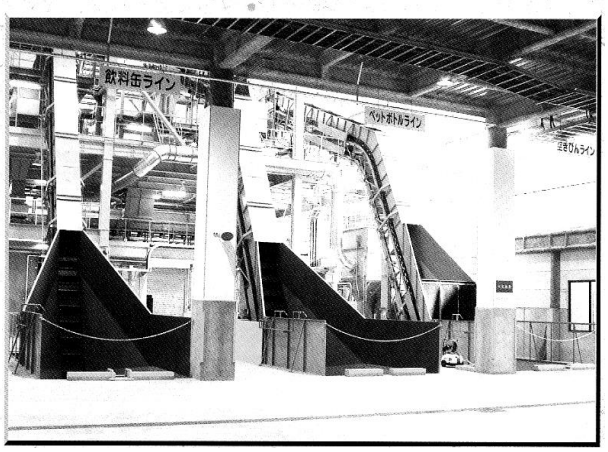
銀の時計
↓

[見学・体験内容]
① 飲料缶・ペットボトル・空きビンの三つの処理ラインを見学。
② まだ使える粗大ごみなどを修理・再生する施設を見学。
③ 資源ごみを再生する施設を見学及び再生作業の体験。

[プログラム]
- 支部長挨拶
- スケジュール説明
- 概要説明
- リサイクルハウス見学
- エコハウス運営に関する説明と懇談
  所長補佐 横地克彦 氏
- プラザハウス見学（紙すきの体験講座）
- 小牧・岩倉衛生組合　環境センター・焼却施設見学
- 解散（17:30）

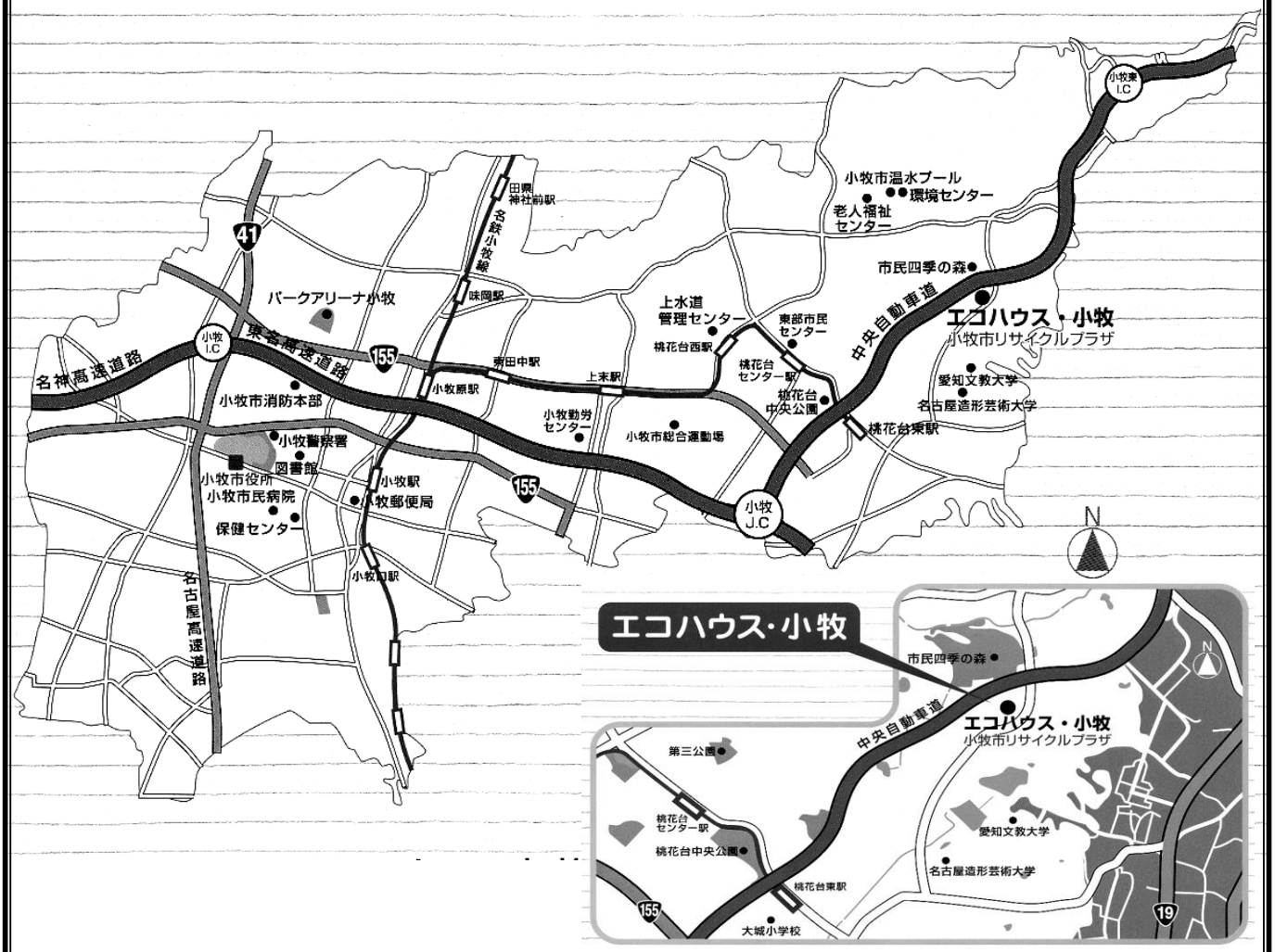
プラザハウス

リサイクルハウス



[申し込み]　廃棄物学会東海・北陸支部事務局
折込の FAX 用紙をご使用ください。

[問い合せ]　廃棄物学会東海・北陸支部事務局
〒464-8603 名古屋市千種区不老町 名古屋大学 エコトピア科学研究機構
TEL:052-789-5851, FAX:052-789-5849,
E-mail: kawashima@esi.nagoya-u.ac.jp



環境にやさしい社会のキーワードは、「太陽と自然の恵み・バイオマス」！

バイオマスとは何？

今、地球温暖化や増え続ける廃棄物など、環境問題はさらに深刻になっています。環境にやさしい社会をつくるためには、ごみの分別やリサイクル、電気、ガスなどエネルギー使用の節約、自然環境保護などの活動が重要ですが、限られた資源のなかで循環型社会づくりには不安もあります。持続的に発展する社会をつくるためには、太陽と植物の光合成からはじまる生態系循環のなかで、バイオマス（生物資源）を利用することに注目が集まっています。

今、植物から、プラスチックやアルコールをつくったり、廃棄物からガスや水素を取り出してエネルギーをつくることができます。これからは、太陽と自然の恵み・バイオマスを活かした環境にやさしい社会づくりを進める必要があります。

岐阜市では、このバイオマスを利用活用して、２１世紀型の環境先進都市・バイオマスタウンぎふを目指しています。

バイオマスを知る、体感するには、バイオマスシンポジウム岐阜へ参加を！

平成 16 年 9 月 24日、9 月 25日　岐阜市長良川国際会議場で開催

☆　開会式 9 月 24 日 10:00～10:30　大会議室
〇岐阜市長あいさつ
〇バイオマスシンボルマーク公表
☆　基調講演　9 月 24 日 10:30～12:00　大会議室
〇バイオマスと産業活性化
　経済産業省新エネルギー対策課　荒木課長
〇トヨタのバイオマス戦略
　トヨタバイオ・緑化事業部　築島部長

☆　セッション１　9 月 24 日 13:15～15:00　大会議室
テーマ【生分解性プラスチックが築く未来】
〇環境にやさしい素材、生分解性プラスチックの活用分野は広く新たなビジネスチャンスを生む！
ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ　三菱樹脂　猪俣氏
ﾊﾟﾈﾗｰ　ユニチカ　望月氏
　　岐阜プラスチック工業　西村氏
　　日本コーンスターチ　田中氏

☆　セッション２　9 月 24 日 15:30～18:00　大会議室
テーマ【バイオマス活用の最先端研究】
〇ここまできた廃棄物の活用技術！
・基調講演　　東京大学　五十嵐教授
・バイオガス　北海道大学　松田教授
・コンポスト　静岡大学　中崎教授
・焼酎粕活用　熊本大学　木田教授
〇姉妹都市大学研究発表
・カンピーナス大学
・浙江大大学

☆　セッション３　9 月 25 日 10:00～11:30　大会議室
テーマ【バイオマスは社会を変える】
〇　バイオマス活用で地域を活性化！
ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ　ﾊﾞｲｵﾏｽ産業社会ﾈｯﾄﾜｰｸ　泊氏
ﾊﾟﾈﾗｰ　・行政の取り組み
　　千葉県ﾊﾞｲｵﾏｽﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄﾁｰﾑ　渡邉氏
　　・住民参加の取り組み
　　菜の花ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ　藤井氏
　　・環境健康住宅
　　環境住宅ｼﾞｬｰﾅﾘｽﾄ　中野氏
　　・生ごみ堆肥化
　　アサヒ環境システム　石井氏
ｾｯｼｮﾝ３参加者には、生分解性プラスチック繊維を使用した、マイバックをお配りします

★　セッション４　9月25日13:00～16:00　メインホール
〇　基調講演
　「地球環境を救う新しいライフスタイル」
　　北野大
〇　環境トークショー
　「環境都市の未来を語る」
　カンピーナス大学教授、浙江大教授、岐阜大学教授
　岐阜市長

体感コーナー（製品パネル展示）
9 月 24 日、25 日
〇生分解性繊維や天然素材を活用した環境にやさしいファッション
〇生分解性プラスチックのパネル、製品
〇岐阜市のバイオマスの取り組み

問い合わせ先
バイオマスシンポジウム岐阜実行委員会事務局
（岐阜市役所人・自然共生政策室内）
岐阜まるごと環境フェア実行委員会事務局
（岐阜市役所循環型社会推進室）
岐阜市神田町１－１１
TEL058-265-4141 内線 6402、6422
FAX058-264-7119

主　催
バイオマスシンポジウム岐阜実行委員会
岐阜まるごと環境フェア実行委員会
共　催
生分解性プラスチック研究会
後　援
農林水産省東海農政局、経済産業省中部経済産業局、環境省中部地区環境対策調査官事務所、岐阜商工会議所、社団法人岐阜青年会議所、岐阜新聞社、中日新聞社、日本生物工学会、廃棄物学会

予告 「廃棄物処理技術」基礎講習会

只今準備中です！！

企業の研修，学生の教育，知識の取得等に役立ててください。

廃棄物学会東海・北陸支部では、このたび廃棄物処理に関する分野横断的な基礎知識と基礎技術の修得を目的とした講習会を開催します。講師陣は現在廃棄物処理分野において第一線でご活躍中の先生方です。企業、自治体、公的研究機関、大学等で廃棄物処理に関する実務、開発、研究に携わる中堅技術者・研究者、大学の若手教員・大学院生などの積極的な参加をお待ちしています。講習会参加者には「講習修了書」を交付します。

主　催：廃棄物学会東海・北陸支部
日　時：平成 16 年 11 月 1 日(月)～2 日(火)
会　場：花車ビル北館５階会議室（名古屋市中村区名駅 5-4-14）
交　通：JR 名古屋駅からユニモールを東へ直進、突き当たり③番出口を上がる。
　　または、地下鉄桜通線「国際センター」下車③番出口を上がる。すぐ右側のビル。
定　員：60 名（先着順）
参加費：（正会員及び登録団体市民会員）15,000 円、（学生）10,000 円、（一般）20,000 円
講義内容と講師陣（現在交渉中のものがあり、講義題目や順序が変更する場合があります。）

〔第 1 日〕
- 廃棄物処理の法体系（交渉中）
- 化学物質と環境分析技術（交渉中）
- プラスチック系廃棄物の処理（交渉中）
- 有害有機系化合物の無害化処理（松田仁樹・名大工）
- バイオ系廃棄物のコンポスト化（中崎清彦・静岡大工）
- バイオ系廃棄物のガス化利用（交渉中）

〔第 2 日〕
- リサイクルルートの考え方と資源循環ネットワーク設計（藤江幸一・豊橋技科大）
- 廃棄物のライフサイクルアセスメント（後藤尚弘・豊橋技科大）
- 環境・エネルギー・資源と循環型社会［基調講義］（酒井伸一・国立環境研）
- 金属・無機系廃棄物の再資源化処理（藤澤敏治・名大エコトピア）
- 焼却の考え方と焼却技術（成瀬一郎・豊橋技科大）
- 最終処分場の構造と管理（土橋 弘・日本産業廃棄物処理振興センター）

申込み方法：10 月 22 日(金)までに、氏名、所属、連絡先を記載のうえファックスまたは E-mail にて事務局宛お申し込みください。
申込先（事務局）：〒464-8603 名古屋市千種区不老町 名古屋大学 エコトピア科学研究機構
　　廃棄物学会東海・北陸支部
TEL:052-789-5851、FAX:052-789-5849, E-mail: kawashima@esi.nagoya-u.ac.jp

◎ プログラムの詳細、申込み・送金方法等の詳細情報は廃棄物学会誌 15 巻 5 号または支部ホームページ（http://www.rescwe.nagoya-u.ac.jp/haikibutu/index.htm）をご覧ください。

お ね が い

法人会員（公益会員・賛助会員）募集

廃棄物学会の活発な活動を維持・発展させるために，個人会員の増強とともに法人会員の増強が求められています。この機会に法人会員に応募していただくことを望みます。

法人会員になると以下の特典があります。ただし，公益法人は⑪～⑬を除く，賛助会員は⑧，⑨を除く。

特　典

① 廃棄物学会誌・論文誌，その他資料の受領
② 廃棄物学会研究発表会，その他学会開催行事への参加
③ 廃棄物学会誌・論文誌への寄稿
④ 廃棄物学会が行う事業への参加
⑤ 顕著な功績のあった会員への表彰制度の適用
⑥ 国際セミナーや海外研修視察への参加
⑦ 各種シンポジウム，施設見学会，セミナー，講演会等への参加
⑧ 公益会員が主催する講演会・研修会等の講師紹介を依頼できる
⑨ 廃棄物に関する最新情報を活用できる
⑩ 廃棄物に関する最新技術・情報を習得，活用できる
⑪ 賛助会員特別セミナー・見学会に参加できる
⑫ 賛助会員が主催する研修会等の講師紹介を依頼できる
⑬ 学会ホームページから賛助会員ホームページへリンクできる

公益会員とは
　この学会の目的に賛同して入会した官公庁若しくは公益団体等
賛助会員とは
　この学会の目的に賛同し，事業を援助する団体，法人若しくは個人
年会費
　公益会員：50,000 円，　賛助会員：150,000 円（１口以上）

その他，詳しいこと及び個人会員についてのお問い合わせ，お申し込みは
東海・北陸支部長または事務局までお願いします
TEL 052-789-5854,　FAX 052-789-5853, E-mail hitoh@esi.nagoya-u.ac.jp

研究室紹介

三重県科学技術振興センター工業研究部窯業研究室
所在地：〒510-0805 三重県四日市市東阿倉川７８８
TEL 0593-31-2381　　FAX 0593-30-2029
http://www.mie-iri.tsu.mie.jp

三重県科学技術振興センター工業研究部窯業研究室は、県立の機関で県内企業のニーズに沿った研究開発や技術支援を行っています。焼結や水熱合成といった比較的セラミックスに馴染みの深い手法を用いた廃棄物関連の研究も多く実施しています。オートクレーブ（写真）は、25ml の回転式容器、2 リットル（280atm）、150 リットルの蒸気養生タイプまで 3 種類取りそろえ、下記の研究等に役立てています。

表１．当研究室で取り組んだ廃棄物関連の研究事業

産業廃棄物利用のためのデザイン研究～砕石スラッジの活用術～	砕石スラッジの陶磁器原料としての可能性を探り、製品としてのデザインを追及した。（約50ピースの飲食器を提案）
無機系廃棄物リサイクル技術の開発	下水汚泥焼却灰の性状を明らかにし、これを用いた低温焼成による大型タイルの製造技術を開発した。
	一般焼却灰や廃珪砂を利用し、珪酸カルシウム鉱物（トバモライト）の合成に成功した。また、処理条件（温度、時間、PH）と生成量の関係を明らかにし、トバモライトの炭酸化により、重金属の除去が可能であることを明らかにした。
廃棄物窯業製品化技術開発事業 廃棄物を利用した窯業製品製造技術の開発	下水汚泥焼却灰、廃ガラス及び粘土を用い、1000～1100℃程度で焼結する陶磁器素地を開発した。また、これに適合する釉薬を開発した。
	生コンスラッジ、陶磁器くずなどを用いてプレス成形と水熱処理をすることにより大型タイルを製造する技術を開発した。
水熱反応によるRDF焼却灰のリサイクル技術	ゼオライトのような珪酸塩鉱物を合成するために、水熱合成＋メカノケミカル処理で高収率で合成することに成功した。RDF焼却灰の洗浄手法を確立した。 有害物が固定化され土壌汚染対策法の基準値以内になった。

25ml の回転式容器

2 リットル蒸気養生装置

150 リットル蒸気養生装置

また、工業研究部全体で ISO9001 の認証を受けており、試験研究機器の開放サービス（有料）を実施しています。これは、製造用のボールミルや粉砕機から、XRD、XRF、SEM、BET まで多種多様の装置をご利用頂けます。県外企業の方もご利用頂けますので、是非お問い合わせください。

共同研究のオファーもお待ちしています。

新刊紹介

辻　喜礦著　『再考「都市の姿」』

定価　1000 円（消費税込み）

著者は現在，東海・北陸支部の副支部長であり，本会報の巻頭言を書いています。書は身近な事柄である「都市の姿」，「都市のごみ処理」，「都市と水」から構成されています。
購入を希望される方は，事務局までご連絡ください。

「この小冊子を環境問題について広く考える場などで，副読本として活用していただければと僭越ながら思っております。」
（著者談）

支部ホームページの閲覧について

廃棄物学会東海・北陸支部では、支部の主催・共催・協賛行事を広く会員の皆様に知って頂くために、また会員の皆様の情報交換や意見交換の場をつくるために、下記の URL においてホームページ（HP）を開いています。ぜひ皆様の“お気に入り”の Website に登録していただき、ときどき閲覧して頂きますようご案内致します。

http://www.rescwe.nagoya-u.ac.jp/haikibutu/index.htm

平成 16 年度支部活動記録・行事予定

3 月 13 日	平成 15 年度東海・北陸支部総会（愛知県産業貿易館）
5 月 20 日	第 5 回常議員会，第 1 回幹事会（名古屋大学）
7 月 13 日	第 2 回幹事会（名古屋大学）
9 月 2 日	第 3 回幹事会（名古屋大学）
9 月 17 日	見学会・体験講座
11 月 1～2 日	「廃棄物処理技術」基礎講習会

○○○○○○○○　編集後記　○○○○○○○

今年は世界の各地で大雨による被害や異常乾燥による山火事が発生しています。日本でも新潟の大雨による被害は記憶に新しく、各地で大雨や土砂崩れによる被害が起きました。また、甲府では 40.4℃の最高気温を記録するなど異常気象の訪れなのでしょうか。地球環境の保全について真剣に考えたいものです。東海・北陸支部は、この秋に見学・体験講座、講演会、基礎講習会を催します。みなさんと共に学びたいと思います。（K.S.）

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

廃棄物学会 東海・北陸支部 会報 No.5
平成 16 年 9 月 1 日発行

廃棄物学会 東海・北陸支部 事務局
〒464-8603 名古屋市千種区不老町
名古屋大学エコトピア科学研究機構
伊藤 秀章
TEL 052-789-5854
FAX 052-789-5849
E-mail hitoh@esi.nagoya-u.ac.jp